

2015年度 学生優秀論文

日本マクドナルドの競争優位性に関する考察

～経営悪化の課題と展望を中心に～

著者 島崎 皓平・大島 大輔 (鄭ゼミ)

1. 論文の概要

本論文では、日本マクドナルドが、どのようなマーケティング戦略やブランド戦略を行い、顧客獲得、売り上げ向上へとつなげてきたのかを明らかにするため、前 CEO の原田詠幸氏による戦略と取り組みを主とし分析していくうえで、ファーストフード業界や外食産業の現状と動向を把握し、ファーストフード業界における日本マクドナルドの位置づけを明らかにしている。また、日本マクドナルドが、ブランドを構築することによって継続的な成長を遂げ、売り上げ向上へとつなげてきたことを述べたうえで、今後の日本マクドナルドの課題と展望を明らかにしている。

さらに、日本マクドナルドにおける業績低迷(2012～現在)の背景の要因を3つの問題点として明らかにし、その問題点から今後の課題と展望について分析している。

2. 推薦理由

本論文は、日本マクドナルドにおける業績低迷(2012～現在)の背景と、今後の課題と展望を使用期限切れの鶏肉問題だけではなく、その他に3つの課題点を様々な文献や情報を学術的に整理したうえで、明らかにしている。その上、本論文には、日本マクドナルドにおける今後の展開すべきブランド構築や生産体制にとって示唆される部分が多く含まれており、優秀論文に値するものとして、推薦する。

七島藺をめぐる産業振興を通じた地方創生

～大分県国東市の取り組みを事例として～

著者 池田 将吾 (中川ゼミ)

1. 論文の概要

本論文では、大分県国東市の取り組みを事例として、七島藺をめぐる産業振興を通じた地方創生の可能性について検討している。産業振興および地方創生という視点から、現在注目を浴びている国東市の七島藺ビジネスの実態と課題について分析し、今後の生産振興のための展開方向を考察している。研究手法は文献調査と聞き取り調査であり、聞き取りにより得た情報・資料および既存文献を整理することで、国東市を事例に地方創生のあり方を展望している。聞き取り調査は国東市に立地するくにさき七島藺振興会で行っている。

2. 推薦理由

本論文は、入念な現地調査を基に、七島藺ビジネスの実態と課題を検討している。現場で得た情報を学術的に整理したうえで、国東市の今後と地方創生のあり方を展望している。本論文には、大分県の今後の地域農業の展開にとって示唆される部分が多く含まれており、優秀論文に値するものとして、推薦する。

再生可能エネルギーの普及と発展に関する研究

著者 片山 由紀 (阿部ゼミ)

1. 論文の概要

本論文は、普及拡大を続ける再生可能エネルギーについて、今後の課題の分析とその解決方法を論じている。再生可能エネルギーは、①化石エネルギーを使用することで悪化の一途をたどる地球温暖化を阻止する、②資源の枯渇への対策を確保する - ことが重要である点をとらえたうえで、再生可能エネルギーの種類についてそれぞれ発展性を論じた。さらに、2011年の東日本大震災を受けて起きた東京電力福島第一原子力発電所の教訓を踏まえ、将来のエネルギー問題について問いかけ、2016年4月から始まる全面的な電力自由化を再生可能エネルギー普及・発展と対比させながら将来を見据えた内容となっている。

2. 推薦理由

本論文は、入念な理論研究を基に、再生可能エネルギーの必要性について論じている。日本のエネルギー安全保障、地球温暖化問題を念入りに分析し、再生可能エネルギーの普及が最善の策だとした論理は説得力のある内容だった。また、再生可能エネルギー普及の課題について触れた点では、それぞれのメリット、デメリットをもとに踏み込んだ内容となっている。例えば、地熱については発電だけでなくその二次利用が重要であること、バイオマスについてはカーボンニュートラルの概念についても触れるなど、多くの専門的知識が織り交ぜられている。本論文は、再生可能エネルギー普及の先端を走る大分県にとって、参考になる内容が多く含まれており、優秀論文に値するものとして、推薦する。

Jリーグにおける制度的課題と組織業績に関する一考察

著者 赤嶺 昂太 (角田ゼミ)

1. 論文の概要

本論文は、1993年に開幕して23年目を終えたJリーグの、現状と問題点について考察したものである。単なるいちサッカーファンという視点ではなく、大学四年間に培った経営学や会計学の知識を基に分析が行われている。第1章ではJリーグのこれまでの歴史が整理されている。第2章ではJリーグの課題としてレギュレーションの問題と移籍ルールの問題を指摘し、検討がなされている。第3章では個別開示情報を基にした財務的分析と非財務的分析がなされている。第4章では2013年度から導入されたクラブライセンス制度について、具体的事例を挙げて問題点が指摘されている。

2. 推薦理由

本論文は、入念な資料収集を基に、Jリーグの制度的課題を検討し、また、組織業績に関する考察が行われている。特筆すべき点は、第3章における「チーム成績と組織業績の関係性」の分析である。2009~2014年の6年間に渡ってJ1に居続けることのできた11クラブを対象として、非財務的指標である勝ち点(チーム成績)を、財務的指標であるチーム人件費や広告収入、入場料収入、配分金などと比較して関係性を明らかにしている。独自性があるのは、5年間の時系列比較を可能とするために対象を11クラブとしている点と、単純に同年度のデータ同士を比較するのではなく、前年度の非財務的指標が次年度の財務的指標にどう影響があったのか否かという、結果を1年ずらした分析が行われている点にある。以上が本論文のオリジナリティであり、優秀論文に資するものとして推薦する。

リーダーシップについて

著者 遠藤 依路 (矢澤ゼミ)

1. 論文の概要

本論文においては経営学の分野における「リーダーシップ」に関する多様な研究をサーベイし、リーダーシップ理論を次の5種類の類型に分類した。

1) 特性理論：1940年代にアメリカにおいてリーダーの特性に関する広範な調査が行われた。この調査結果からリーダーに特徴的であるとみなせるものは何かを分析した。例えば身長、体重、体格といった外見的なものから、知能、雄弁さ、判断力、持続力、ソーシャルスキルなど多くの特性が網羅され、124もの調査結果が収集された。しかしながら一方で、個人の特性からだけでは、リーダーシップの発生を説明したり、その人がリーダーになれるかを予想するのに十分ではないことが明らかになってきた。

2) 行動理論：1950年代において、組織を率いるリーダーがとる行動に着目する考え方として、PM (P:performance, M:maintenance) 理論が広く知られるようになった。

3) 条件適合理論：1970年代においては、リーダーの行動スタイルとその行動が適切である条件について多くの研究がなされた。たとえば、タスクがあいまいだったり、チーム内にコンフリクトがある状況下においては指示型のリーダー行動が適切である可能性が高いことが判明した。

4) 交換交流理論：1970年代においてリーダーとフォロワーとの関係を功利主義の立場から両者の相互依存関係を操作するという発想から調査、分析が行われた。

5) 組織変革のためのリーダーシップ理論：1980年代後半から、人は一般に変化に対しては否定的態度をとるということを前提として組織変革をするためにいかに組織のメンバーに変革を受け入れ更には変革にコミットさせるかという問題意識に基づく調査研究が行われた。

2. 推薦理由

本論文は1940年以後のリーダーシップに関する研究について非常に広範な文献調査を実施することによりまとめられており、本論文はリーダーシップに関して非常に多くの貴重な情報を提供している点において推薦に値すると判断した。

湯布院が観光地として発展した原因と背景

～湯布院の地域住民の目線から～

著者 釘宮 詩織 (中山ゼミ)

1. 論文概要

本論文は、今や別府温泉をも凌ぐ温泉観光地として人気が高い湯布院を取り上げている。当地は、40年ほど前までは「奥別府」とも称された一温泉地であった。本論文は、湯布院が一大観光地として発展していく過程を先行研究および他地域との比較を通して分析をしている。

筆者は当地が別府温泉とは一線を画した保養温泉地を目指すことになった社会的な背景と、住民の動きを丁寧に追っている。当地はこれまでいくつかの試練に直面している。最初の試練はダム建設という巨大な公共事業であった。次いで大規模リゾート開発計画が持ち上がった。こうした局面は地域住民が主体となって対応し、その結果、ダム工事を中止に追い込み、リゾート開発も断念させていった。

著者はこうした動きのみならず、観光地としてのイメージ形成の視点および、歴代の住民意識調査を分析し、意識の変化といった視点から分析している。また、地域振興の優良事例として名高い愛知県足助町と比較することによって、地域リーダーの役割について考察をしている。

2. 推薦理由

筆者は1年次から観光に関心を高め観光分野の専門科目を中心に勉学を進めてきた。卒業論文作成に当たって、事例地選定に向けては3年から積極的に先行研究を吟味してきた。その真摯な姿勢は高く評価できよう。そして先行研究の成果を最大限活かす努力を続けてきた。

加えて、筆者は現地調査に向けて3年時より推薦者が主幹する研究会に入りその経験も積んできた。しかし、その現地調査が十分にできたとは言い難い。

論文の内容は、結論に導く段階で論の展開に多少のずれが生じているが、目的と方法は一貫しているため論文の構成は質の高いものとなっている。

よって、本論文は別府大学国際経営学部の優秀論文に相応しい内容と評価し、ここに推薦する。

宅地建物取引士と不動産業界

著者 秋吉 克啓 (中道ゼミ)

1. 論文の概要

経済活動において、土地および建物等は重要な役割を果たしていることは、従来から古典経済学における生産要素として重視されてきていることから明らかであろう。この土地および建物等における経済活動を主として扱うのが不動産業界であり、宅地建物取引士はこの不動産業界の要ともいべき役割を担っている。このような認識のもと、2015年に名称を「宅地建物取引主任者」から変更されて、従来よりもその地位向上が図られている。この日本における変化は、アメリカにおける不動産業界における同様の資格が、業界における一部ではなく、全員が資格を保有していなければ取引に携わることができないなど、弁護士や医師と並んで重要視されていることなどからも影響を受けていることを論じた。また消費者に対して、取引の円滑化、安心と安全、信頼などを如何に充足させていくのかについても考察し、持続可能な経営のための方策やコンプライアンスについても検討することによって、今後の日本における不動産業界と宅地建物取引士を論じた。

2. 推薦理由

概要の通り、経済学および経営学において重要な分野である不動産取引の問題に焦点をあてて考察しており、社会科学分野の経営経済系である本国際経営学部の卒業論文として、十分に合致したテーマと方法であることが、推薦の第1点目として挙げられる。第2点目として、参照文献に不十分さが残るものの、現代社会における最重要課題の一つである経済活動の活性化と消費者保護の問題に焦点をあてており、社会問題解決が重要な使命である経営学においては、学術性においても推薦できる。第3に、不動産経営における要である宅地建物取引士および最新の動向を、アメリカの状況とも比較して、明確に抽出して論じており、論述の手続きと結論の明快さも推薦理由である。

以上の点から、本論文が優秀論文に値するものとし、ここに推薦する。